

〈移行対応表〉

配慮が必要な 学年	4 年	6 年	6 年
配慮が必要な 学習内容	漢字の「かんむり」「あし」「にょう」 「たれ」「かまえ」について	世代による言葉の違いについて	時代による言葉の変化について
関連する 指導事項	知・技(3)ウ	知・技(3)ウ	知・技(3)ウ

令和2年度版で 対応していた 教材	4 上 P 32「漢字の組み立て」	6 年 P 128「言葉の変化」	6 年 P 128「言葉の変化」
令和6年度版で 対応している 教材	3 上 P 130「漢字の組み立て」	5 年 P 146「和語・漢語・外来語」	5 年 P 144「浦島太郎」



新4年生で対応



新6年生で対応



新6年生で対応

指導可能な 教材	4 上 P 38「漢字辞典を使おう」 部首を学習する際に、漢字の組み立てには、「へん」「つくり」以外にも、「かんむり」「あし」「にょう」「たれ」「かまえ」といった部分があることを押さえることが可能である。	6 年 P 48「聞いて、考えを深めよう」 自分たちとは違う世代にインタビューする機会を捉えて、世代によって言葉の使い方や捉え方が異なることを確認することが可能である。	6 年 P 72「天地の文」 近代の文語調の文章を読むことを通して、自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉があることに気づくことが可能である。
指導の際の ポイント	※移行措置資料としてご用意した学習材「漢字の組み立て」、あるいは令和6年度版3上P130「漢字の組み立て」を必要に応じてコピーして配布するなどして、「かんむり」「あし」「にょう」「たれ」「かまえ」について確認し、同じ部分をもつ漢字を集めるなどの活動を行わせるとよい。	※6年P48「問いをもとう」を基に、異なる立場や年齢の人の話を聞くときの違いを出し合う中で、世代によって使う言葉に違いがある場合があることに、具体例を挙げながら触れておくとい。	※「天地の文」を音読する中で、現代では使わない言葉や異なる言い回しを見つけて、出し合わせるとよい。6年P276「言葉の交流」を参考に、外国の言葉を日本語の中に取り入れてきた言葉の変遷に触れてもよい。